



1_ 真剣に小隊訓練に臨む（平成28年撮影） 2_ 団結して災害対応にあたる 3_ 山林火災を想定した訓練を実施 4_ 全国女性消防操法大会に出場 5_ 町内を巡回し火災予防を広く周知

地域を守る桑折町消防団

地域の団結力が防災力

自然災害の脅威が迫る中、被害を最小限に抑えるには、地域の防災力強化が重要です。「自分たちの町は自分たちで守る」をモットーに、地域の安全安心を守る町消防団の活動や団員の思いを紹介します。

一歩踏み出して、誰かを守る人に――



桑折町消防団 団長
津田 次男さん

町を守る防災のリーダー

消防団は消防組織法に基づき、町に設置されている消防機関です。地域における消防防災のリーダーとして、平常時・緊急時を問わず地域に密着し、住民の安全安心を守るという重要な役割を担っています。

現在の組織は、団本部および地区ごとに4分団14部で構成されており、「自分たちの町は自分たちで守る」という使命感のもと、353人の団員が活動しています。

団員のほとんどは、仕事と消防団活動を両立させています。その職種は、会社員や自営業、

公務員などさまざまです。年齢も21歳から77歳までと、幅広い年代の団員が在籍しています。町内で火災が発生すると、伊達地方消防組合から団員へ連絡が入り、職場の理解や協力を得て、昼夜問わず現場へ出動します。

消防団の活動は、消火活動を含めた災害対応に留まらず、平時の防火指導や予防啓発など、多様化しています。町では、平成26年に女性消防隊が発足し、現在は23人の団員が活躍しています。広報車による火災予防啓発の町内巡回活動や幼稚園児への防災教育など、女性ならではの視点を活かし、多岐にわたる活動に取り組んでいます。

共に連携し、防災力を強化

「町を守る」という意志のもと、消防活動にあたる消防士。火災や救助、救急活動などを専門的に行うスペシャリストです。「地域を守るのは、消防士の役目」と思う人もいるかもしれませんが、町内43平方キロメートルもの広大な面積を、消防士だけで全て対応することはできません。地域を熟知している消防団員の存在は大きく、両者が連携することで、被害を最小限に抑えることができます。

東日本大震災や令和元年台風19号の被災時には、消防士と消防団が連携した救助活動によって、より多くの人を助けることができました。このほか、火災現場での消火や土砂崩れ・河川の氾濫での対応・避難誘導、山や川での行方不明者の捜索など、共に協力しながら、町の方々の安全を守っています。消防士と消防団の連携を強化することで、より一層地域の防災力が高まり、安全安心なまちづくりへとつながります。

Interview



伊達地方消防組合中央消防署
西分署 消防士長
吉田 学さん

「人を助きたい」町を思う気持ちは同じ

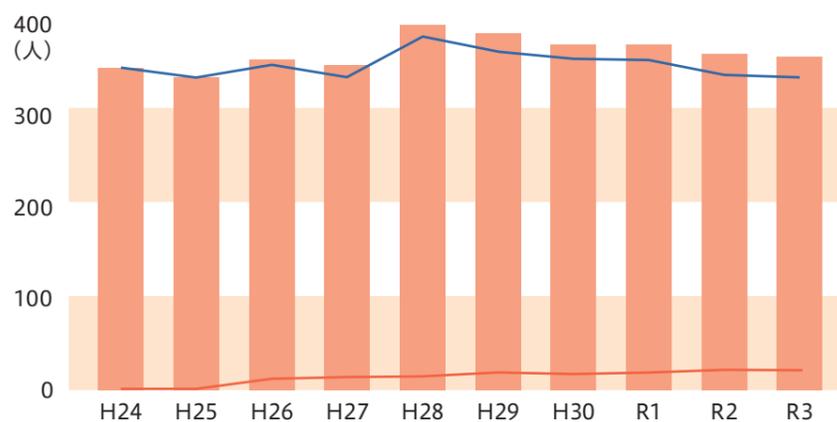
桑折町は、他地区に先駆けて、大規模災害発生時に対応する機能別消防団や、広報活動に取り組む女性消防隊を発足するなど、消防団の取り組みが活発な地域です。「自分たちの町は自分たちで守る」という皆さん一人一人の町を思う気持ちの強さの表れだと感じます。

火災発生時は、我々消防士より、近くにいる地元の消防団員が、先に現場へ到着する場合があります。団員の皆さんが防火水利からポンプ車

へ水を送る体制をいち早く準備してくださるおかげで、私たちは到着後すぐに放水活動にあたることができます。

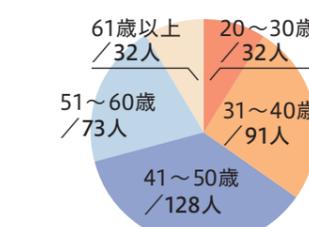
地域の一番近くで活動している消防団の皆さんは、私たちにとってもなくてはならない心強い存在です。「人を助きたい」という共通した志をもつ者同士、これからも町の皆さんが安心して生活を送れるように、さらに連携を強化して、共に活動に取り組んでいきたいです。

団員数の推移

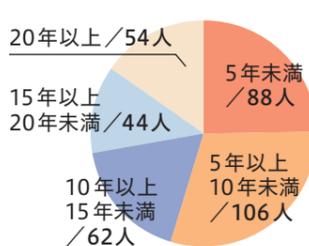


団員数は全国的に減少傾向にあります。桑折町では一定程度の団員数を確保し、女性の割合も年々高くなっています。年齢構成は、20代から70代まで幅広く、平均年齢は46歳です。また、在籍年数は、現在から10年未満に入団した人が194人と全体の半数を超え、ここ数年のうちに消防団へ入団している人が多いことがわかります。

団員の年齢構成



団員の在籍年数



Information

消防団員になりませんか

地域の防災力を保つためには、多くの消防団員が不可欠です。町内に在住・在勤の18歳以上の男女で、心身ともに健康な人なら、どなたでも入団できます。普段働いている人、女性、学生など、皆さんの入団をお待ちしています。

■問い合わせ
生活環境課 危機管理係 ☎582-2123

「自分だけでなく、隣近所との助け合いも大切にしよう」「できる範囲で、地域の安全安心のために貢献しよう」。こうした思いが町全体に広まれば、万一災害が起きた時も、被害を最小限に抑え、助かる命も増えるはず。守られる人から、守る人へ。一人一人の力は小さくても、人が集まれば大きな力を発揮します。「私なんて」と一歩引くのではなく、「何かできないか」と一歩踏み出してみませんか。あなたの勇気ある一歩が、この町の未来を守ります。

勇気ある一歩が、町を守る

実は私も消防団員です！ 地域を守るみんなのヒーロー

いざという時、私たちの命を守るために活動する消防団。団員は普段別な仕事をしていますが、火事や災害などがあった時に駆けつけてくれる頼れる存在です。菅野団員も本間団員も「入団を機に、年齢や職種を超えて、町の人とのつながりがたくさん増えました。自分のできる範囲で楽しく活動できますので、ぜひ仲間になりませんか」と声をそろえます。

年齢や職種を超えた出会いで、自分自身も成長

桑折町消防団ラッパ隊 隊長 本間 英樹さん ひでき

入団のきっかけは——

29歳の時、町へUターンしたのを機に入団しました。それから約20年間、家族や職場の理解を得ながら、日々楽しく活動しています。

印象に残っている活動は——

東日本大震災時の対応が、特に印象に残っています。自宅も会社も被災しましたが、消防団員として避難所運営や炊き出し、町内巡回に明け暮れました。被災現場を前に、「町を守るには消防団がなくてはならない」と改めて消防団の意義を実感し、より責任感ややりがい芽生えました。また、ラッパ隊に入隊し、検閲での演奏のみならず、最近では相馬福島道路の開通式や役場新庁舎の開庁式など、町の大きなイベントで演奏する機会をもらえるようになりました。息子が小さいころは、よく妻と演奏を聴きに駆けつけてくれました。普段と違う制服姿に「パパ、カッコいい」と言ってもらえたことが嬉しかったです。

入団して良かったことは——

年齢や職種に関係なく、幅広い世代の人と知り合うことができ、自分自身の人間の幅も広がったように思います。徐々に後輩も増えてきて、活動に対する責任感も増えました。消防団活動で身に付いた立ち振る舞いや考え方は、仕事の場面にも生きていて、相乗効果が生まれていると感じます。消防団に入ると、一気に町のことが分かり、町の人との親睦も深まるので、最近移住して来た人、Uターンした人にもぜひ入団してほしいです。



普段は桑折ガス(株)に勤めています



災害時に給水活動にあたる



万一の火災に備えて放水訓練



町のイベントに花を添えるラッパ隊

自分を育ててくれた町へ、少しでも恩返ししたい

桑折町消防団女性消防隊 隊長 菅野 茜さん あかね

入団のきっかけは——

以前から、検閲などできびきびと動く団員の姿を見て、「消防団ってカッコいい!」と思っていました。平成26年に女性消防隊が発足したのを機に入団。憧れの活動服を身にまとい、楽しみながら活動に参加してきました。昨年4月には女性消防隊長に任命され、今後は女性独自の活動も進めたいと考えています。

印象に残っている活動は——

横浜市で開催された全国女性消防操法大会に、県代表として出場したことです。当時、まだ男性団員の後ろにくっついて活動していた私たちにとっては、大きな挑戦でした。多くの団員や消防職員からサポートを受けながら、仕事後の夜間や早朝など約半年間訓練に励みました。仕事と家事、育児との両立は大変でしたが、全国の舞台でひとつの挑戦をなし遂げられたことで、団員同士の団結力も高まり、私自身人生の糧となりました。応援してくれた家族にも感謝しています。



家族との時間も大切に

入団して良かったことは——

地域の皆さんとふれあう機会が増えたことです。女性消防隊独自の活動として、幼稚園での防災紙芝居の読み聞かせをしています。子どもたちの真剣な表情を見るととても嬉しく、こちらも笑顔になります。これからも一町民として、私を生み育ててくれた桑折町に、少しでも貢献していきたいです。

入団を迷っている人へメッセージを——

写真を撮るのが得意なら、SNSで活動の様子を発信したり、元吹奏楽部としてラッパ隊の活動をしたり、子育て中だからこそ子どもの興味をひく活動を考えたりと、消防団活動でも自分にできることは意外とたくさんあります。一緒に楽しみながら、地域に貢献しませんか。



幼稚園で火災を題材にした紙芝居を披露



女性消防隊の活動 Facebook に投稿中!

